富山大学薬学実習 報告

◇期　日：令和4年8月3日（水）、8月4日（木）、8月6日（土）
◇場　所：富山大学薬学部（杉谷キャンパス）
◇参加者：2学年希望者16名
◇指導者：富山大学薬学部の教員、大学院生

富山大学薬学部で３日間にわたり「くすりの科学①～プロベネシドの合成と効果」「くすりの科学②～ジフェンヒドラミンの合成と効果」という2つのテーマのもとで薬学実習を行った。

１日目の午前には有機化学についての講義と有機化学を利用した医薬品についての講義を受けた。事前学習で有機化学を教わってはいたものの、やはり大学で教わる内容の講義となると新しく学ぶことが多く、講義についていくのがやっとだった。午後には各グループに分かれ実験を開始した。２日目も終日実験したが、見たことも触ったこともないような実験器具ばかりで、実験の内容も非常に高度だった。１つ１つの手順の目的を整理しながら実験を行っていくことが大変だった。実験が終わった後の達成感は何とも形容しがたいものだった。そして３日目には、自分たちの作った薬品を実際に投与し効果を確かめる動物実験を行った。私たちの実験のために尊い犠牲となってくれたマウスやモルモットに感謝したい。

薬を合成する段階から、投与までの一連の体験は、薬を化学的、生物的角度から捉えた実習となったので、「薬学」と一口で言っても、多くの観点から勉強していく必要性を再認識した。今後の進路選択にも役立てていきたい。

薬の重要さはコロナ禍で実感した通りであり、１つの薬には、何千、何万もの人々を治す無限の可能性がある。今回の実習を通して、薬に携わる仕事の魅力を改めて感じた。実験途中での大学院生との交流では、普段なかなか聞くことのできないような生の学生の声を聞くことができ有意義だった。また、大学院生の研究室にも立ち入らせてもらえたことで、実際の研究活動の雰囲気を感じることができ、良い刺激となった。そのような設備の整った研究室で実験をする将来の自分を考えると、大学生活が今から楽しみにもなった。今回の実習で得た貴重な経験を高校生活だけでなく、大学生活やその後の生活にも役立てていきたい。

最後に、３日間我々を指導してくださった大学院生の方々、教授の方々、引率してくださった先生方へ感謝申し上げたい。